



- 1 制作展
- 2 日本重症心身障害学会学術大会
自衛消防審査会
- 3 新入職員特集
- 4 マイワールド
人事異動

制作展

リハビリテーション科 作業療法士 柏山 むつ子

11月…制作展の季節がやってきました。昨年度は仮設棟への引っ越しのため、時期を早めて実施しましたが、今年は秋に実施できました。仮設棟3階廊下のための展示のため例年より規模は小さくなっていますが、今年もいろんな作品が出来上がりました。

毎年、ご好評をいただいている粘土を使用した食べ物シリーズ。今年は“マカロン”と“和菓子”でしたね。マカロンは缶ボトルの底を利用して成型したとのことでしたが、本物そっくり!思わず手が伸びてしまうような出来栄でした。他にもわんぱうという白抜き剤を使用した描画や厚紙にアルミホイルを巻いて作った動物や魚。ボックスアートやグルーガンアート、金屏風の貼り絵など楽しい作品がたくさんありました。見ているだけでも心が和みますね。芸術の秋…みなさんも何か作品作りに取りかかってみてはいかがですか?



第45回日本重症心身障害学会学術大会

世界に向けて発信しましょう

リハビリテーション科 理学療法士 清水義之

第45回日本重症心身障害学会学術大会が、9月20日(金)から21日(土)の2日間、岡山コンベンションセンター等で開催されました。当センターからは2題の発表があり、私は共同演者として参加しました。

今回は口演・ポスター発表合わせて300題の一般演題の他、教育講演やシンポジウムなどが活発に行われました。また学術大会として初めてオーストラリアとスコットランドから2人の専門家をお招きし「国際的視点からみた日本の重症児(者)支援の評価と課題」をテーマとするシンポジウムが開かれました。日本の重症心身障害児(者)の療育は世界の先頭を走っていると言っても過言ではないと思われまます。私たちも国際的な舞台上で世界に向けて発信していく必要性を改めて感じました。

学会は今取り組んでいる仕事の立ち位置を確認でき、多くのヒントが得られる刺激的な場所です。来年もぜひ足を運びたいと思います。



平成31年度 自衛消防審査会

自衛消防審査会に出場して

第3病棟 指導員 安部弓子

2019年9月10日火曜日、野山北公園運動場にて自衛消防審査会が行われました。自衛消防とは、火災等が発生した場合に施設等の被害を最小限に食い止めるため、情報収集・初期消火・通報連絡・避難誘導・消防隊への情報提供等、適切な処置を取れるよう日々訓練しておくことです。またこの自衛消防審査会では、訓練の成果を確認し初動対応から実放水活動まで披露する場となっています。初出場の私は、消防署で行われた事前練習で慣れない動きに戸惑いながらも、一番員として迅速に行動することや的確な操法を丁寧にご指導頂きました。また、指揮者の村瀬さん、予備員の阿部主任、担当の赤坂係長や仲村主任に励ましやアドバイスを頂きながら練習を重ねてきました。満を持して当日を迎えたのですが、緊張してしまい練習してきたことを十分に発揮することは出来ませんでした。しかしこの経験から、万が一の時は率先してセンターの皆さんの命を守るために動ける自信が付きましました。応援して下さいました皆さん、ありがとうございました。



★ 私が初めて重症心身障害児者の方々と関わったのは、大学1年時に難病の子どもとその家族を対象としたキャンプにボランティアとして参加したことです。医療ニーズの高さや言語的コミュニケーションの難しさに戸惑うことも多かったですが、一人ひとりの個性に寄り添った看護に感銘を受け、重症心身障害児者の看護を志望しました。入職してから、利用者様との関わり方や専門的知識や技術、一人ひとりに合った看護など分からないことが多く、不安や焦りばかりでした。しかし、同時に利用者様と関わる度に命の重みや看護師としての責任・やりがいも強く感じました。日々の業務では、先輩スタッフにフォローをいただきながら利用者様に合ったケアを実践できるよう努力しています。言語的コミュニケーションを取ることが難しい利用者様もいらっしゃるため、全身状態をアセスメントすることや身体全体で表現して下さる利用者様からのサインをキャッチすることができるよう心掛けています。尊敬しているたくさんの先輩スタッフから、利用者様との関わり方や利用者様一人ひとりに沿ったケアをたくさん学び、初心を忘れずに日々成長していきたいと思えます。(加藤結)



〈新入職員特集〉

私たちの重症児者看護の
スタートは
東大和療育センターから



♥ 看護学校の実習で重症心身障害児の患者さんと関わったことが、私が当センターに勤めようと思ったきっかけです。その時コミュニケーションや看護の難しさに触れ、自分には何が出来るだろうととても悩みました。しかし、関わりの中で患者さんの生きる力や家族の熱い思い、看護師さんの温かい関わりを見ていく中で、もっと深く関わりたい、重症心身障害児者の方の生活を支えられるような看護師になりたいと強く感じる様になりました。そして、様々な病院や施設を見学する中で、当センターの利用者の個性豊かに生きる姿や穏やかな雰囲気、職員の方々の真剣であると同時に温かみのある関わりを見て、ここで働きたいと思えました。

当センターに入職してから半年が経ち利用者さん、先輩方に助けていただきながら日々多くのことを学ばせていただいています。実際に利用者さんに関わってみると、個別性の強さやその人それぞれにあった看護・療育の難しさに頭を悩ませることも多くあります。しかし、ゆっくりと焦らず丁寧な関わりを大切に、コミュニケーションや援助を行っていくことで、利用者さんにより良い看護を行うことが出来ると考えています。

日々学びを絶やすことなく、利用者さんが安楽により良い日々を過ごせるような関わりのできる看護師になれるよう、努力していきたいと思えます。宜しくお願いします。(佐々木靖代)

☀ 私が入職してから半年を振り返ってみて感じることは、利用者さん一人一人個性があり、その個性という部分をしっかり知った上で関わっていくということが重要だということです。

入職してすぐの頃は、重症心身障害児(者)の特徴を理解していなかったため、利用者さんの脈拍数が速くなっていたりすると気持ちが焦ってしまうことがありました。しかし、重症心身障害児(者)の特徴を理解していくことで、バイタルや表情から今利用者さんが何を求めているのかといったところが少しずつ理解でき落ち着いて考えることができるようになってきました。

またコミュニケーションにおいても、初めは私から「おはようございます。今日もよろしくお願ひしますね。」と声をかけてコミュニケーションをとっていた方が、関係を築いていくうちに「おはようございます。」と声をかけてくれるようになった時、利用者との信頼関係が築けてきたのだと嬉しく思ったことが心に残っています。

今後も利用者に関わっていく中で利用者が何を求めているのかということを一歩に考えて、安心して過ごしてもらえように、技術・知識ともにつけていけるよう努力していこうと思えます。(小森谷七海)



今年の夏の全国高校野球大会、準優勝した石川県星稜高校の試合は欠かさず観ていました。ドラフト候補投手のピッチングも魅力的でしたが、それ以上に選手が試合中に笑っていることに、違和感があったからです。ピンチの場面でも笑顔、失策しても笑顔。次の試合も、その次の試合も笑顔。なぜなんだ？ エラーしたら、普通は悔しそうな顔をするのになぁ・・・後日、星稜高校にメンタルコーチとして関わってきた方の著書を読んで、全てが腑に落ちました。星稜高校のスローガン&アクションが、「必笑」だったのです。「必勝」ではなく、「必笑」です。勝ったから笑うのではなく、笑うから勝つ。ピンチの場面でも笑っているゆとりがなければ、体も気持ちも固くなり、持っている力を発揮できない。いにしえより、言葉が行動を決めるほどの力を持っていることを、「言霊」と表現してきました。思い返せば、私も多くの言葉に支えられてきました。「誰にでもできることを、誰もやらないくらいにやる」「今日という一日は、どうしても生きたいと願った人のかなわなかった一日である」「努力する人は、それを楽しんでいる人に勝てない」自分を支えてくれる言葉との出会いは、一人の親友を持つほどの価値があります。(高井直人)



編集後記

少しずつ秋の深まりが感じられるようになりました。爽やかな秋晴れは心地良いですね。利用者さんを連れて秋の散策にでかけたくくなります。カツラの葉を指で擦り甘い香りを楽しんだり、どんぐりを拾って制作も良いですね。

さて、秋といえばやっぱり食欲の秋。先日、いつもは購入しないちょっと良い新米を炊いてみました。そうです。一粒一粒がたっている自立したお米です。そうするとそれに見合う美味しいおかずが欲しくなる・・・はい、頑張ります。芋栗かぼちゃ、さんまにきのこ。今日のおかずは何にしよう。スイーツからおかずまでバリエーション豊かに楽しめる秋はやっぱり素敵な季節です。(Y・H)



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風 第98号

編集 院内報そよ風編集委員会
発行日 令和元年11月15日
発行 東京都立東大和療育センター
東京都東大和市桜が丘3-44-10
Tel 042-567-0222